

金沢・白山 発 紙リサイクル共創モデル実験

石川県 広域連携を目指して

～地域循環共生社会づくり～



2025年 月 日

要・ロゴ使用許可申請



目次

- ① 啓発活動のストーリーイメージ
- ② 啓発活動の多様な協働体制イメージ
- ③ 金沢・白山市の強みを生かした循環モデル
- ④ 当面の啓発活動イメージ「雑がみさまを探せ！」を軸に
- ⑤ 石川県環境総合計画との親和性
- ⑥ 金沢市環境基本計画（第3次）等との親和性
- ⑦ 白山市環境基本計画（第3次）との親和性
- ⑧ 期待される成果イメージ
- ⑨ 本提案への思い
- ⑩ 将来的な啓発活動の広域展開への期待

（参考）

- ・ 雑がみさまを探せ！（雑がみ回収促進社会実験）
- ・ 紙リサイクルの重要性
- ・ 紙リサイクルとSDGs
- ・ Towards 2030 & Beyond ・ 古紙センターPDCA

1. 啓発活動のストーリーイメージ

各自治体では、ゴミ焼却施設の更新・統合や最終処分場キャパの課題が顕在化しつつあり、**資源循環型モデルの更なる推進**が急務。

本提案は金沢市、白山市を始め、県内の**各自治体が有するポテンシャルを最大限**に活かし、**「人・資源・地域経済」が循環**するローカル・エコシステムの推進を目指すもの。

紙リサイクル（特に雑がみ）を中核とした地域共創モデルを推進し、**「環境」「教育」「地域経済」**の3分野を横断的に結び付けることで**「見えるリサイクルの輪」**を目指す。

導入に際しては**既に金沢市や白山市が有する**地域資源、制度、ネットワークを**最大限活用**しながら、持続可能な紙リサイクルモデルを**「啓発活動」を通じて「可視化」**する。

(起) 紙ごみや雑がみをめぐる課題の再認識

(承) 石川県の各市町村がこれまで積み上げてきた積極的施策と地域資源の可視化

(転) それらを有機的に統合し、**地域全体の参加型**で展開する循環モデルづくり

(結) その成果が県民生活の質を高め、**石川ブランドと環境施策の発信力**を高める

1. 啓発活動のストーリーイメージ

資源循環を共創の中核主体として、雑がみ回収・利用を地域コミュニティに根付かせる。

多様な生活者・事業者・行政を結び、その成果と意義を可視化・共有することで、持続可能な地域共生圏の形成を目指す。

3つの軸を有機的に構造化する。

(1) 「見える化」×「つながる化」

自治体や企業、団体との共創事例を公開し、「つながり」の存在を社会に共有。

(2) 参加共感型コミュニケーション

情報の一方通行脱却「わかる・できる・続ける」体験を設計。

(3) 地域コミュニティ内経済・価値の共創

地域の循環共生圏、地域経済や自治体の課題解決と一体化するメッセージを意識。



2. 啓発活動の多様な協働体制イメージ

行政

各市町村（資源リサイクル関連、福祉、教育委員会等）：施策調整、拠点整備、学校授業導入、公益施設運営

教育機関

小中学校、高校、大学（金沢、星稜、学院大、金城など）EMS活動、新入生環境授業、ボランティア活動、PBL型地域参加

福祉・高齢者団体

就労支援B型事業所、社会福祉協議会、老人クラブ等：拠点運営補助、見守り交流

企業・商工会

スーパー、包装印刷、食品、信金、運輸等：店頭広報、ポイント制度連携、雑がみ袋広告、事業系雑がみ回収、SCCI連携

市民団体

PTA、NPO、環境ボランティア：地域拠点協力、イベント運営、住民啓発

メディア・研究機関

地元新聞社、TV、SNS、大学研究室等：広報支援、効果測定、全国展開モデル評価

静脈・製紙産業

域内の製紙工場、古紙問屋、回収収集業者：雑がみ受入、回収・品質管理、搬送

スポーツ団体（少年・プロ）

少年野球団・サッカー団等：集団回収、資源回収協力、啓発活動、保護者との家庭連携、エリア内のプロ球技チーム連携

需給両業界団体

古紙再生促進センター&中部製紙原料商組・北陸地区委員会、石川県再生資源事業協組：活動全般支援

3. 金沢・白山市の強みを生かした循環モデル

地域コミュニティの結束力

町内会や市施設を中心とした地域活動が盛んで、分別啓発や拠点回収の担い手として住民が主体的に関わりやすい土壌がある。

教育機関との連携

金沢大学などの高等教育機関が立地し、探究学習や学生の地域参画を通じて、紙資源循環の学びと実践を連動させやすい。



環境啓発の基盤施設が充実

環境学習センターや出前講座制度などが整っており、雑がみ分別をテーマにした普及啓発活動を行政と協働で展開しやすい。

市民の環境意識の素地

ごみゼロ運動やリサイクル活動が浸透しており、雑がみ回収を次の行動ステージとして市民の理解と参加を得やすい環境がある。



持続可能なまちづくりが進む石川県

石川県は「県環境総合計画」において、「循環型社会の形成」「地球環境の保全」「環境を通じた人づくり・地域づくり」を重点に掲げ、県内各市町の環境施策の方向性を統一している。県内には金沢市、白山市、小松市、加賀市、能美市、七尾市、輪島市、珠洲市など、多くの自治体がSDGs未来都市に選定されており、またゼロカーボンシティ宣言も金沢市、白山市、小松市、野々市市など広域に及ぶ。このため、本モデルが目指す「雑がみ掘り起こし」による資源循環の高度化、温室効果ガス削減、協働による地域共生は、県全体の政策方向と親和性を有する。さらに、観光地や商業集積地、教育機関、スポーツ団体など多様な主体が存在し、域内製紙会社での「資源循環・地産地消構造」を地域ブランドや復興・活性化の要素として発信できる強みを持つ。県域での横断的な取組み展開により、モデルの成果を面的に拡大できる土壌が整っている。

“紙資源の地産地消”を再確認することで、輸送コストや環境負荷軽減の強みや、地域内経済の循環性の情報発信を充実化し、地方都市に於ける全国のベンチマーク化を志す。

新規設備や格段の追加投資を前提とするのではなく、すでに地元地域が有する地域資源、制度、ネットワークを最大限活用しながら、段階的かつ持続可能に展開する「啓発モデル」を可視化。

4. 当面の啓発活動イメージ「雑がみ様を探せ！」を軸に（2025～26年度）

雑がみ啓発と学校教育との接続

市内小中学校において紙リサイクルに関する啓発活動「雑がみさまを探せ！」を通じた出前授業やワークショップを実施。
「子供から家庭を変える、社会を変える」児童生徒や保護者の家庭内分別を促進。

域内の製紙工場との連携

石川県内エリアには紙リサイクルの地域内処理・利用が可能な製紙工場（加賀製紙、中川製紙等）の存在があり、それらとの連携を通じた、紙資源リサイクルの地産地消を更に推進。

スポーツ団体との連携

スポーツ少年団の資源回収活動協力、運動と公共活動の融合を図る。集団回収活動の活性化、世代間交流の機会にも繋げる。また県内のJ3・B3・SV等、各プロチームとの連携を通じ、試合時の「雑がみさまを探せ！」啓発キャンペーンを図る。

市イベント・施設に於ける啓発活動

多くの市民が参加する市民イベント、祭り、環境フェアやリサイクルプラザ、公民館などを通じた「雑がみさまを探せ！」啓発を通じ、一人ひとりの参画意識醸成を図る。

大学生ボランティアとの連携

大学環境活動団体などを通じた、学生を募集、「雑がみさまを探せ！」運動の支援を通じた持続的な啓発活動の組織力強化、学生自身への社会課題解決体験のきっかけとする。

地元企業との連携による資源循環

大規模商業施設、商店街店舗を通じた、地域ポイント利用・認証制度（「石川リサイクル応援店」等）による消費者との接点強化を推進。企業の紙袋への「雑がみ回収に利用」を訴求する表示協力。

5. 石川県 環境総合計画（2020～2025）との親和性

循環型社会の形成

県計画の「循環型社会の形成」は、本モデルの核理念と一致。可燃ごみに混在する雑がみを分別・回収し、再資源化率を高めることは、廃棄物総量削減と資源循環率向上という県目標に直結。家庭・事業所・公共施設など多様な回収拠点を設け、可視化する本モデルは、循環社会構築を現場で具現化する施策となり得る。

市民・事業者・教育機関の協働

本計画は、環境を通じた人づくり・地域づくりを柱に、市民、事業者等、多様な主体の参画を重視。雑がみ掘り起こしモデルは、諸主体が役割分担して進める協働型の取組みであり、県方針と一致。地域の特性に応じた協力体制を構築、活動成果を可視化・共有することで、住民参加型の環境づくりを持続可能な形で定着させることが期待される。

地球温暖化対策

県計画は温室効果ガス排出量の削減を重要課題とする。雑がみの分別・再資源化は、焼却処理時のCO₂発生抑制に繋がりが得るため、温暖化対策目標の達成にも寄与し得る。紙ごみは可燃ごみに占める割合が大きく、その分別徹底の効果が期待できる。本モデルを県内各地域に展開し、地域単位の脱炭素社会実現への道筋の強化も期待される。

廃棄物減量化と資源有効利用

本計画は、廃棄物の発生抑制や再資源化率向上などの定量的目標を設定。雑がみは資源価値が高いにもかかわらず混入や汚損で再利用されにくい課題があり、本モデルはその弱点を直接改善する。製紙原料としての利用率を向上させることより、県が掲げる資源有効利用と減量化の両方に成果をもたらし得る。



6. 金沢市 環境基本計画(第3次)、ごみ処理基本計画(第7期) (2024年~2038年)との親和性

循環型社会形成との整合性

市計画は、「ごみの減量」「資源化の促進」「持続可能な循環型社会の形成」を基本理念。令和6年度から令和20年度まで15年間で焼却ごみ・事業系ごみの抑制目標を設定。本モデルは、この理念と整合し、日常生活における分別習慣の定着を通じて、モデルの実証がごみ削減目標の達成に直結する実装メカニズムとなり得る。

環境負荷の最小化と処理体制

ごみ処理基本計画では、ごみ処理の環境負荷低減と効率的処理体制の再構築が求められている。本モデルによる雑がみの再資源化が進めば、可燃ごみ減量と処理負荷軽減に直結、エネルギー消費やCO₂排出の削減にも寄与。さらに回収ルートや拠点配置を工夫すれば、効率的な処理インフラとの整合も可能であり、市の処理体制強化にも資する展開となり得る。

協働による環境負荷低減

市計画は「市民・事業者との協働による環境負荷の低減」が重点方針。令和2~7年度にかけごみ総排出や燃やすごみ量の目標抑制を明記している。本モデルは、市民・大学・企業・地域団体など多様な主体の協働による啓発制度と回収ネットワークの構築手段であり、市が目指す協働モデルと親和性を有する。

環境教育・市民参加の深化

市計画は、市民協働や環境教育、生活者の主体的な行動変容の推進を基軸。本モデルは雑がみ分別の分かる化体験や学校・地域との連携イベントを通じて、参加型の環境学習プログラムを提供可能。市民の行動変容を促すリアルな実践場として、教育と環境保全を同時に進める取組であり、計画の方向性と合致している。



7. 白山市 環境基本計画(第3次) (2016年～2026年)との親和性

循環型社会の実現

市計画は、まず「循環型社会の構築」を明示し、廃棄物の減量や資源循環を施策の中心に据えている。本モデルの雑がみ掘り起こしは、紙資源を焼却から回収へ転換し、ごみ量減と資源化を両立する具体的な手段であるため、計画理念に完全整合する。市民参加を通じて持続可能な循環行動を定着させる実装モデルとなり得る。

環境・地域教育との連動

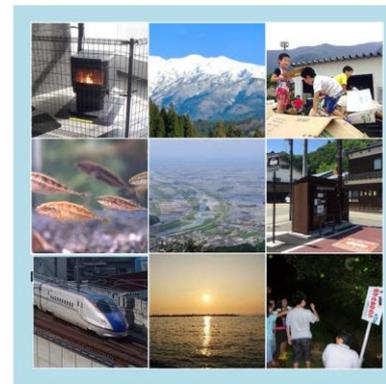
市計画は市民・事業者・行政の連携、市民参加型の環境活動を推進することを基本方針とする。本モデルは、地域住民・学校・企業など多様な主体を巻き込んで雑がみ分別ワークショップや回収イベントを展開可能であり、市民の環境意識向上と行動変容を促す活動の場となる。教育的要素を含む設計により、市民参加型施策として親和性を有する。

環境保全と脱炭素への貢献

市計画は地球環境保全の視点も含み、温室効果ガスの削減に向けた取組みの強化を重視している。焼却ごみの削減はCO₂排出抑制に直結することから、雑がみ回収を介した処理体系の改善は脱炭素への実質的貢献となる。家庭系・事業系の紙資源回収率向上により、計画が求める地球環境への負荷低減の実効的方策が可能。

持続可能な地域づくり

市計画では地域特性を活かしたまちづくりが基本方針にあり、循環・脱炭素・自然共生を基調としている。雑がみを地域内で回収・再資源化し、製紙業や地域産業と接続するモデルは、地域資源を活かした持続可能な経済や文化の形成に貢献する。地域循環経済の担い手となることで地方創生と環境調和の両立に資する取り組みとなり得る。



第3次白山市環境基本計画
～これからも住みよい白山市とするために、今できること～



白 山 市
平成 28 年 3 月
令和 4 年 3 月改訂

8. 期待される成果イメージ（順不同）

- ・ 雑がみ回収量の増加、可燃ごみに占める紙ごみ比率減少
- ・ 紙ごみによるCO2排出削減効果の定量化
- ・ 域内製紙工場とのマッチングによる資源地産地消モデルの加速
- ・ 小中高校生・大学生・高齢者・地域住民のリサイクル意識向上と世代間交流の促進
- ・ 高齢者との交流機会創出による地域コミュニティの活性化、孤立防止
- ・ 障害者の地域参画による共生社会モデルの実証と福祉的就労の場の創出
- ・ 紙リサイクル業界における次世代担い手の掘り起こしと職業理解の深化
- ・ 行政・住民・業界がともに成果を実感できる、参加型の循環型地域社会モデルの形成
- ・ 近隣自治体、南東北各県、更に全国への波及効果 等々

↓ 5%

燃えるごみ量削減

「雑がみさまを探せ！」
を通じた分別底上げ

↓ 5%

ごみ排出量削減

1人1日当たりの
ごみ排出量削減

↓ 15%

紙ごみ比率減少

家庭系の燃えるごみに
占める紙ごみの比率減少

1000+

啓発参加者数

多世代の市民参加による
コミュニティ活性化

9. 本提案への思い

これら一連の対策は、金沢市を始めとした「先進的な施策を展開」してきた**各自治体**において、**すでに個別には推進されてきた**要素である。

今回の**啓発モデルづくり**では、それらを有機的に結合し、回収・啓発・再資源化・教育・経済の各分野が一体的に連動する**“リサイクルの輪”**として、**県民に視覚的・体感的に可視化される仕組み**を目指したい。

これにより、県民一人ひとりが**地域循環への参画を一層、理解・実感**でき、**長年積み重ねてきた資源循環の取り組みが、より広く認知**され、成果として花開くことが望まれる。

SDGs未来都市、ゼロカーボンシティ宣言都市を、数多く有する石川県において、紙ごみを中心とした可燃ごみ削減の実践は、温室効果ガス削減や持続可能なまちづくりの成果指標とも直結するものであり、**地方自治体の環境政策の模範事例**として、他自治体に発信されることを期待する。

10. 将来的な啓発活動の広域展開への期待

金沢市、白山市での「雑がみ様を探せ！」を通じた啓発モデルは、段階的に小松市、加賀市、野々市市などの地域にも展開可能なスケラブル（拡張可能性）構造を有する。まず2025～26年度に金沢市、白山市で啓発活動はじめ、諸課題の整理を実施し、成果を蓄積。

2026～2027年度には地理構造、リサイクルインフラの観点で本モデルとの親和性がある、県南エリアの小松市、加賀市、能美市、野々市市等の自治体と連携拡大し、広報、リサイクル啓発の共通化を図る。

2027～2028年度以降には更に、県北、能登エリアなどの震災復興地域での「復興と循環型社会づくり」の両立モデルを模索し、静脈産業と自治体のクロス連携を加速。段階的・実証型のモデル普及を通じ、広く県民の紙リサイクル参画への理解向上に繋がることを望まれる。

以後、更に同様の検討を考える、富山、福井、新潟等の北陸エリア全体への拡大を目指し、2030年頃には広域環境政策への反映を目指す「北陸・雑がみ資源循環ネットワーク」を念頭に置いた、より広域に於ける資源リサイクルの全体最適化活動なども視野に入れたい。

(参考) 雑がみさまを探せ! (雑がみ回収促進社会実験)

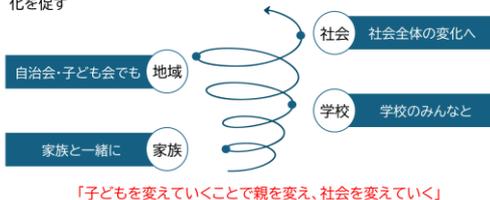
目的

雑がみの認知度向上並びに分別・回収の習慣づけを目的とした啓発活動
⇒ 幼少期(学童期)からの分別習慣の効果は大きく、未来にわたって環境配慮行動を行う人材育成につながる



目的

子どもを発信源として家族と一緒に取り組むことで、同居する親世代の意識変化を促す



効果(自治体・業界)

可燃ごみに捨てられる雑がみ回収促進を進めることで、可燃ごみの削減や新たな製紙原料の確保につながる



「雑がみさまを探せ!」は、いかにして子供たちに家庭での雑がみ分別に誘導するかを、大阪大学大学院経済学研究科・松村真宏教授(仕掛け)と当センターが連携する新たな試み。

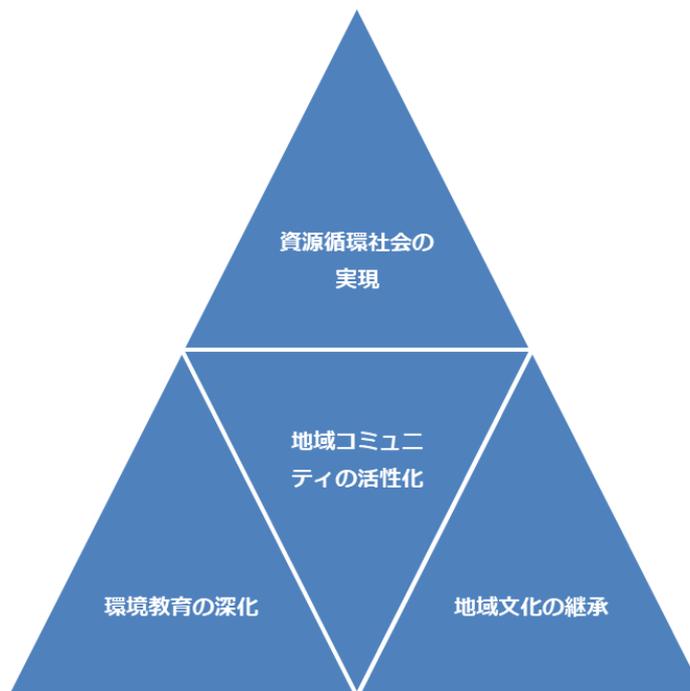
仕掛けのアプローチとは、正論(従来の正攻法)で解決しなかった社会課題を正論は使わずに参加者(小学生)が興味を持ちそうな「仕掛け」を利用することで、結果的に望ましい行動を実現し、その後も親世代を絡めて、家族で継続しやすい仕掛けを狙う。

子供達への「仕掛け」コンセプト
紙=カミ(神) ⇒ 家庭の中には、神(紙)様・「雑がみさま」が宿っている。



一般向け

(参考) 紙リサイクルの重要性



紙リサイクル、とりわけ家庭や地域から排出される「雑がみ」は、その性質上、行政・業者・市民の協働によってのみ更なる分別と回収が可能となる分野。

また、資源循環・地域交流・環境教育・福祉・社会包摂といった複数の公共的価値を同時に実現できる特性を持ち、地域循環共生社会の実装モデルとして即効性が期待される領域。

(参考) 紙リサイクルと SDGs

SDGs ・ 紙のリサイクルが果たすべき役割

(2022年制定)



4 質の高い教育をみんなに

- 紙のリサイクルの役割
⇒紙の再生品の利用、リサイクルを学べる教育の機会を提供する



11 住み続けられるまちづくりを

- 紙のリサイクルの役割
⇒使用済の紙を分別して再利用を図り、資源の有効活用を図る



12 つくる責任 つかう責任

- 紙のリサイクルの役割
⇒製紙業界のリサイクル可能な商品開発の推進に貢献する
⇒消費者の持続可能な社会形成への参画意識を醸成する



13 気候変動に具体的な対策を

- 紙のリサイクルの役割
⇒ごみの資源化による脱炭素社会の実現に貢献する



15 陸の豊かさも守ろう

- 紙のリサイクルの役割
⇒森林資源の持続可能な利用に貢献する



17 パートナーシップで目標を達成しよう

- 紙のリサイクルの役割
⇒多様なステークホルダーが連携し、持続可能な社会を実現する

日本の紙リサイクルは国民の分別意識の高さや善意に支えられ、また長年にわたる関係者の努力の結果、資源の有効利用や廃棄物の減量化といった循環型社会の形成にも大切な役割を果たしてきた。

当センターは、消費者や事業者を始めとした紙リサイクルに関わる多様なステークホルダーの皆様とともに、広報啓発、調査研究等の事業を通じた古紙の回収や利用の促進に向けた約半世紀弱の歴史を積み重ねている。

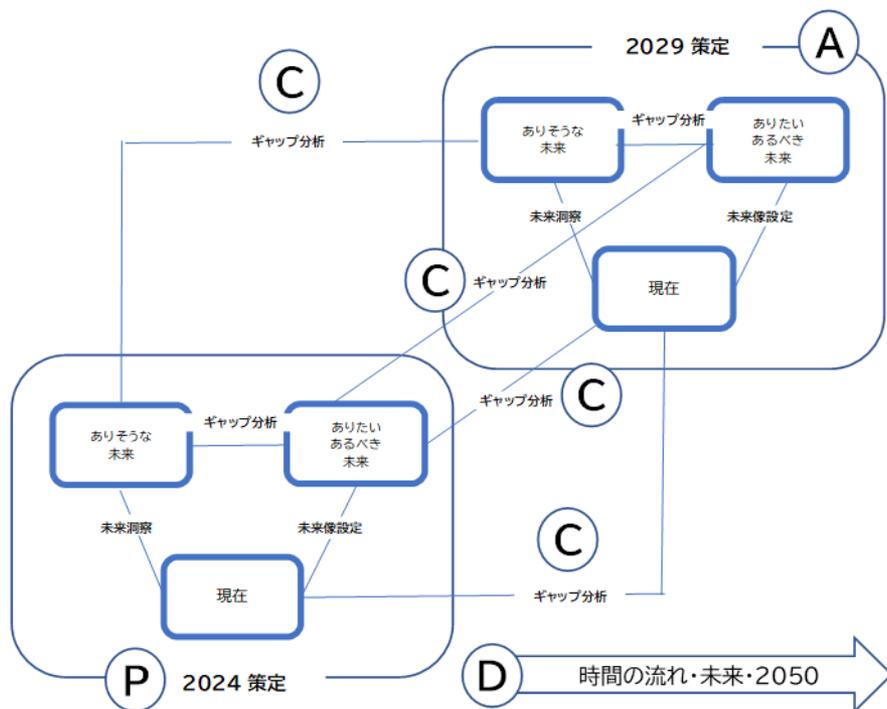
時代背景や社会が変化してきた現在も変わらず、むしろ様々な社会課題が深刻化し、国際社会がSDGs（持続可能な開発目標）の達成など持続可能な社会の実現を目指す中、原点に立ち返ったセンター活動がより一層重要になると考える。

当センターは創立半世紀の節目に向け、活動を支えていただいている皆様とともに、まずは紙リサイクルとSDGsとの関連性を再確認することを2022年にスタートした。今後も多様な立場の方々との共通言語ともいえるSDGsを通じて、小さな連携の積み重ねを大きな力に繋げ、紙リサイクルの更なる発展を目指す。



(古紙センターSDGsレポート)

(参考) Towards 2030 & Beyond・古紙再生促進センターPDCA



当センターは創立半世紀を迎えたが、その節目に当たり多くの関係者の方々から寄せられた「20」の中長期課題（サステナブルチャレンジ2050・共創共生）をお示しした。本年度から、一連の課題対応に向けての具体的な対策や、新たな試みを開始するに当たり、ロードマップイメージである「Towards 2030 & Beyond」を策定した。

様々な社会課題解決に向けた布石は2030年までがラストチャンスであり、その影響が未来の可能性を左右すると言われる時代にある中で、環境・経済・社会側面の統合的向上や、リサイクルに関わるマルチステークホルダーとのパートナーシップを念頭に置いた事業を通じて、循環型社会形成に関する連携・協働のつなぎ手としての、更なる努力が当センターにも求められている。

今後の課題対応については需給両業界の協働に加えて、これまで以上に広く、紙リサイクルに関わるステークホルダーが、改善できる技術や意識改革を総動員した、統合的なシナジーや全体最適を議論すべき時期にある。



「サステナブルチャレンジ 2050・共創共生」



「Towards 2030 & Beyond」



「創立 50 周年記念誌」

協働の可能性についての「一例」（順不同）

本モデルの定着化に向けた**啓発実験事業** **「雑がみさまを探せ！」** を軸に（2025年～2026年）

- ・金沢、白山市内大学生の啓発ボランティア確保
金沢大学、金沢星稜大学、金沢学院大学、北陸学院大学、北陸大学、金城大学、金城短大等の啓発ボランティア確保。
雑がみさまを探せ！」支援を通じた、継続・持続的な啓発組織力強化、学生自身の社会課題解決体験のきっかけとする試み。
- ・金沢大学EMS（ISO14001）連携
環境教育ISO学生委員会、新入生への啓発授業機会、学園祭でのブース出展、継続的な啓発掲示
- ・学生環境団体との啓発連携（金沢大学 Green Action、金沢市内各大学）
- ・金沢市、白山市と地域連携等の協定締結大学との組織的連携検討（金沢工業大学、金城大学等、10大学以上）
- ・金沢文化スポーツコミッションとの連携、各種イベントでの「雑がみさまを探せ！」キャンペーン
- ・市内小学校での「雑がみさまを探せ！」啓発出前授業、製紙工場見学ツアー連携
- ・金沢市「夏休みごみ減チャレンジ隊」「かなざわ学校エコプロジェクト」コラボレーション
- ・市内集団回収団体との連携、「雑がみさまを探せ！」啓発キャンペーン
- ・「雑がみさまを探せ！」回収啓発ボックス寄贈・設置実験（人口減の地方自治体の持続的な紙リサイクル基盤維持に向けた「ラストワンマイル」対策。産官民連携による共助型・補完的社会インフラを目指して）
市内の小中高、支所・公民館、図書館、リサイクルプラザ、道の駅、商業施設（ドラッグ、量販、ホームセンター、スーパー等）
*いずれも少量回収・非経済性、利害関係者との課題、単なるゴミ捨て場化のリスクあり。
- ・金沢、白山市商工会議所、JC等との連携、関連企業先での継続的な「ローテーション」回収運動
- ・白山市「はくさんECOマネジメントプラン」との啓発活動連携
- ・ツエーゲン金沢（J3）石川ミリオンスターズ（日本海L）金沢武士団（B3）PFUブルーキャッツ石川かほく（SV）北國八ニービー石川（H）、金沢ポート（T）、金沢学院クラブ（S/J）、ヴィンセドール白山（地域型F）等の地域貢献連携、試合会場での「雑がみさまを探せ！」キャンペーン
- ・金沢市、白山市助言、市・支所、公民館、環境啓発施設等を通じた「雑がみさまを探せ！」啓発、市民（主婦）意識ヒアリング、市民ネットアンケート、意見交換会
- ・金沢市のイベント他（いしかわ環境フェア、かなざわエコフェスタ、アースデー、フェアトレードフェスタ、100万人のキャンドルナイト等）の連携、WS、その他イベントの「雑がみさまを探せ！」啓発キャンペーン……………

キャラクター コラボレーションイメージ



石川県環境総合計画推進キャラクター「エコッピー」



かなざわエコキャラクター「アールちゃん」

